国語科学習指導案

日　時　令和〇年〇月〇日(〇)
５校時 13:25～14：15
学校名　中学校
対　象　第３学年
会　場　教室
授業者　〇〇　〇〇

１　単元名

深まる学びへ　表現の豊かさを味わい、生き方を考える
教材名　「握手」小説　井上ひさし
（光村図書　『国語３』）

２　単元の目標

・話や文章の種類とその特徴について理解を深めることができる。　［知識及び技能］(1)ウ
・文章の種類を踏まえて、論理や物語の展開の仕方などを捉えることができる。
［思考力・判断力・表現力等］C(1)ア
・文章の構成や論理の展開。表現の仕方について評価することができる。
［思考力・判断力・表現力等］C(1)ウ
・言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。　［学びに向かう力。人間性等］

３　本単元における言語活動

文学的文章について批評文を書く。　（関連：［思考力・判断力・表現力等］C(1)ウ）

４　単元の評価規準

ア　知識・技能	イ　思考・判断・表現	ウ　主体的に学習に取り組む態度
①　話や文章の種類とその特徴について理解を深めている。	①　「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、論理や物語の展開の仕方などを捉えている。 ②　「読むこと」において文章の構成や論理の展開。表現の仕方について評価している。	①　進んで文章の特徴について理解しようとしている。 ②　表現の効果をもとに作者の意図を考え、自身の言葉で振り返りながら粘り強く作品を批評しようとしている。

５　指導観

(1)　単元観

本単元は、中学校学習指導要領（平成29年7月告示）国語第３学年内容「C　読むこと」(1)

ウ　文章の構成や論理の展開、表現の仕方について評価すること。

を受けて設定した。

今回の単元では、第３学年で身につける力として、「批評的に読むためのスキル」の獲得に向けて「握手」に取り組む。２年後半には、「走れメロス」や「形」の比べ読みを通して、特徴的な表現を通して作者の意図を考え、批評的な視点で小説を読むことに取り組んできた。その経験を活かして「指言葉」「握手」による表現が小説にどのような効果、意味をもたらしているかを考え、作品を批評的な視点で評価しあう活動を行う。

(2)　生徒観

昨年度の学力調査における結果から、ほぼ全ての項目で目標値及び国や全国の平均値を上回っており、基礎学力が高いことが分かる。また、文学的な文章に対する苦手意識も低く、読書や小説、詩歌など文学的文章を創作するなどの活動にも意欲的に取り組むことができる。昨年度「走れメロス」「形」等比べ読みを通して表現の特徴や作者の意図を考え、作品を批評する視点を意識づけてきた。その視点で「握手」の表現の仕方、特徴について客観的な視点をもって評価させたい。

(3)　教材観

「握手」は少年時代を天使園で過ごした「わたし」と、かつて園長を務めていたルロイ修道士との再会を描いた物語である。「わたし」が語り手として書かれており、修道士と語る現在と「わたし」の回想の場面で、ルロイ修道士の温かい人間性が描かれている。作品の特徴として、ルロイ修道士の「指言葉」「握手」等手の描写が挙げられる。手の描写が、言葉にならない心情を表現し、回想のきっかけとして作品に深みを与えている。特徴的な表現から展開や作者の意図まで考えることができ、作品を批評する姿勢や読み方が獲得できる良い教材であると考える。

6　年間指導計画における位置付け　（「読むこと」の文学的文章）

時期	単元名・「教材名」	重点指導事項
４月	「世界は美しいと」 「握手」	C(1)ア　　文章の種類を踏まえて、論理や物語の展開の仕方などを捉えること。 C(1)ウ　　文章の構成や論理の展開、表現の仕方について評価すること。
８月	「挨拶」－原爆の写真によせて	C(1)エ　文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつこと。
10 月	「俳句の可能性・俳句を味わう」	C(1)イ　文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について、自分の意見をもつこと。
12 月	「故郷」（高瀬舟）	C(1)イ　文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について、自分の意見をもつこと。

7　単元の指導計画と評価計画（全５時間）

時	目標	学習内容・学習活動	評価規準(評価方法)
第１時	・作品の概要を捉えることができる。	・「握手」を読み、現在と回想の往復が頻繁になされる構成になっていることを確認する。 ・回想であることがわかる表現やきっかけになっている言葉を見つけ、回想部分を線で囲む。	・時間や場所などを示す語句を通して現在と回想を読み分けている。 ア-①ルロイ修道士の「握手」「指言葉」を構成や展開を踏まえて理解している。　（ワークシート・ノートの記述） ウ-①現在と回想の往復や「握手」「指言葉」などの文章の特徴についてすすんで理解しようとしている。
第２時	・ルロイ修道士の人物像を捉える。	・握手の様子や当時のルロイ修道士のエピソードをもとにルロイ修道士の人物像を読み取る。 ・グループ学習を通して、より適切に「人物を表す言葉」について考える。 ・グループ活動を通して「指言葉」について整理に「わたし」が気づいた内容を読み取る。	ア-①　（ワークシートの記述） ・スライドに必要な情報が明確に示されている。 イ-①既習事項を踏まえ、「握手」「指言葉」など特徴的な表現の意味を理解している。 （ワークシートの記述）
第３時 (本時)	・作品中の「握手」と「指言葉」について、その意味と効果を客観的に捉え、考えている。	・作品中でルロイ修道士が「握手」「指言葉」を用いていることについて、その意味や効果、価値や役割を自分なりに考え、グループ活動を通して表現の意味と効果を考えることができる。	イ-①　（ワークシートの記述） ウ-②「握手」や「指言葉」などの表現の効果について、批評的に考えようとしている。（ワークシートの記述）
第４時	・作品を客観的な視点で捉え、自分の考えを	・作品を客観的な視点で捉え、批評文を書く。	イ-②「握手」や「指言葉」などの特徴的な表現の効果につい

	まとめている。	・作品における指言葉の役割や効果について述べる。	て、批評的な視点で考え、批評文にまとめている。（ワークシートの記述） （ICT 機器の活用）

８　指導に当たって

（１）ICT 機器の活用について

授業の展開の中で、個で考えたことを集約する際に L-Gates「ムーブノート」、批評文の提出には Teams を使用し課題提出を行う。推敲や書くことへの苦手感を軽減できるようにする。

（２）言語活動について

グループ活動と個人活動のバランスをとり、個で考えたことを小グループで集約し、全員で共有する中で考えを深め、批評文に活かせるように行う。

９ 本時（全４時間中の第３時）

(1)　本時の目標

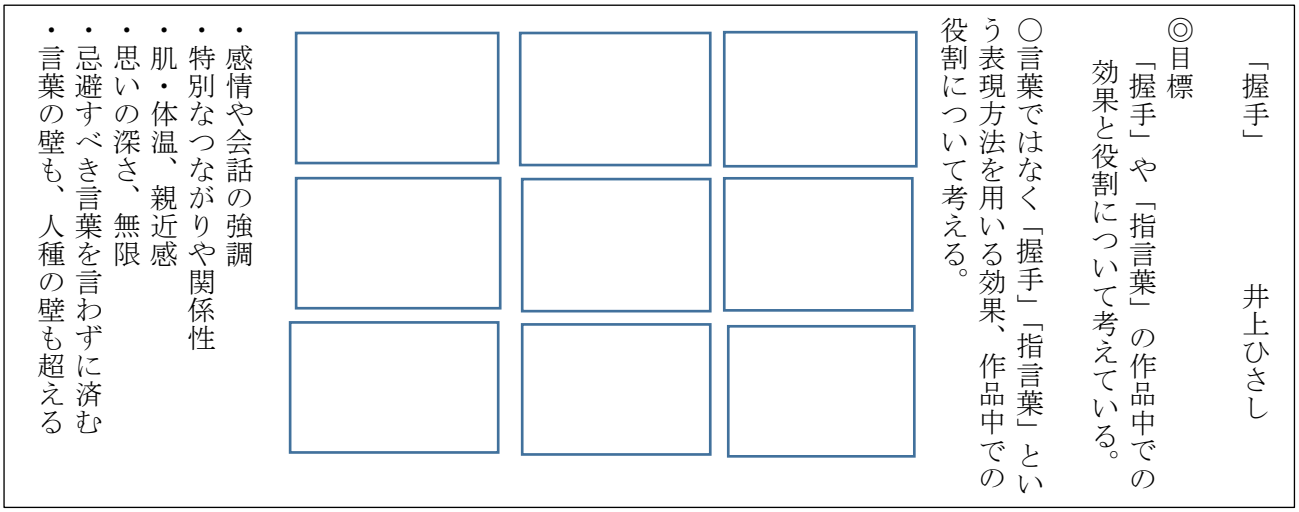
「握手」や「指言葉」の作品中での効果と役割について考えている。

(2)　本時の展開

時間	○学習内容　　・学習活動	指導上の留意点　配慮事項	評価規準(評価方法)
導入 5 分	○前時の振り返り	・それぞれの指言葉や握手が用いられている場面、それぞれがどのような言葉の代わりであるのかを確認する。 ICT 機器でこれまでの既習事項、学習の流れを提示し、学習に見通しをもたせる。	
展開 40 分	○本時の目標 目標　「握手」や「指言葉」の作品中での効果と役割について考えている。		
	・「握手」「指言葉」が出てくる場面とどのような言葉の代わりになっているかを確認する。	・	
	活動①作者はなぜ、言葉ではなく「握手」と「指言葉」という表現方法を用いたのだろう。		
	・個人で検討した内容をワークシートに記入する。 ・小グループに分かれ、効果や役割について交流、共有する。	・言葉を用いず表現することのメリットや効果、作品中での役割など、さまざまな観点から考えられるように促す。	言葉を用いず「握手」「指言葉」を用いることのメリットや効果、物語中での役割について自分なりに考えることができる。 イ - ①（ワークシートの記述）
	活動②全体で共有しながら、「握手」や「指言葉」という表現方法を用いたのはなぜかを整理する。		
		・学習がつながるよう批評的な視点で考え、作者の意図にも触れるようにする。	

		・ICT 機器を用いて小グループでの共有、電子黒板で全体共有を行う。	
まとめ 5 分	・本時の学習の振り返りを行う。	・「握手」や「指言葉」等の表現の役割、効果について考えることができたか。 共有することで考えが深まったか。	ウ - ②（ワークシートの記述）

(3)　板書計画



(4)　授業観察の視点

- ICT 機器を用いた言語活動が生徒の学びを深めることにつながっていたか。
- 意見の共有を行うことで、個々の意見の深まりや広がりが起きているかどうか。
- 生徒が主体的に授業に取り組み、身に付けた知識を活用し、自分の考えをもつことができているか。